



【背景】

胆振東部森林管理署管内は、北海道中央南西部に位置し、工業・牧場・農業・漁業・林業など多種多様な産業に溢れた地域です。

当署管内には苫小牧市、白老町、むかわ町、厚真町、安平町の1市4町があり、その中の苫小牧市、白老町、むかわ町に約6万2千haの国有林と約9万9千haの民有林があります。

苫小牧市の北西部には、三重式火山として知られている樽前山があり、標高1,041mの中央ドームは今も盛んに噴気を上げています。

また、白老町には令和2年に民族共生象徴空間（愛称ウポポイ）が開業し、隣接しているポロト自然休養林は「日本美しの森お薦め国有林」にも選定されています。

【地域の課題】

むかわ町田浦地区にある約65haの耕地防風保安林は、太平洋から吹き込む強風などから農作物を守るた

め大正末期に指定されました。

しかし、樹木の老齢化により成長が止まると共に防風機能が低下してきていることや、強風による倒木及び落枝が、農作業の妨げとなる事態が毎年のように発生するようになりました。

倒木が発生すると森林官だけでは処理が難しいこともあり、本署からの応援が必要となりますが、当該防風林は本署から約60km離れているためすぐには対応出来ない場合もあります。

また、強風により飛ばされた枝を巻き込むことによりコンバイン等が故障すると、その修理代は数百万円となることもあります。



強風により農地に倒れた木

このことから、平成29年度に、むかわ町より、防風保安林の機能向上と近隣住民への安全確保という課題の解決のため、要望書が提出されました。

【課題解決に向けた取組】

むかわ町の要望に応えるため、平成30年度から10年計画で防風保安林改良事業に着手しました。

事業計画は伐採面積約21haを五つのグループに分けて令和4年度までの5年間で伐採し、跡地には地帯えを行い、町の木であるアカエゾマツをha当たり三千本植栽し、その後、補植や下刈を行っています。

隣接している農家の方々からは、これまでの取り組みに対して好意的な評価を頂いており、課題解決に向け、一歩前進したと考えています。

【今後の取組】

令和5年度からは、植栽したアカエゾマツの保育作業を進めていきますが、伐採したヤチダモの伐根からは旺盛な萌芽が見られ、アカエゾマツ

の生長に影響を及ぼす恐れも考えられることから、将来的には除伐作業の実施も検討しながら、保育作業を継続していく必要があります。



現在の耕地防風保安林

【終わりに】

今回の取組では、むかわ町や土地所有者の方々から様々な協力を得られたことに加え、面積も小規模な耕地防風林であったため、効率的、効果的に作業を進めることが出来ました。

近年、この防風林ではエゾシカ生息数の急激な増加や、それに伴う農業被害、交通事故などの新たな問題も発生しています。

今後、町や地域住民の方々と協力、連携しながら防風保安林の健全な維持管理に努めていきたいと思えます。